

Title	2008年10月に連続出現したヤママユ(ヤママユガ科)の雌雄の成虫
Author(s)	久保田, 信
Citation	KINOKUNI (2008), 74: 23-23
Issue Date	2008-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/180700">http://hdl.handle.net/2433/180700</a>
Right	© 和歌山昆虫研究会; 著作権の関係上、墨消しを施している部分があります
Type	Article
Textversion	publisher

## 2008 年 10 月に連続出現したヤママユ (ヤママユガ科) の雌雄の成虫

久保田 信

前翅を水平に広げると 15 cm ほどになる大型のガであるヤママユ *Antheraea yamamai* が、連続して道路に横たわっていたのを偶然だが発見したので報告する。最初の発見は 2008 年 10 月 1 日で、和歌山県白浜町臨海の瀬戸漁港前の海岸道路で死亡していた。この標本は数日後には体中にカビがはえたので廃棄した。

次に出現したのは、飛べなくなった生体の雌 1 個体(図 1)を、和歌山県白浜町臨海の公衆浴場「松の湯」の前の海岸道路で、2008 年 10 月 13 日の 0:30 頃に発見した。この個体は少なくとも数日は生存した。

続いて、その翌日の 10 月 14 日の早朝 4:30 頃、田辺市新庄公園の脇を走る道路で、ビッグU直前の南側の箇所、胴体がべちゃんこになって死亡していた 1 個体の雄を発見した。

上記のように、道路で発見した 3 個体以外に、室内に入り込んできた個体もある。それは 1 個体の雄で、2008 年 10 月 4 日の 22:30 頃に、和歌山県白浜町臨海に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の実習室に、その日の高校生対象の実習が終了する間際に元気よく舞い込んできた。高校の引率の教師がこの飛び回る個体の後翅をつかみ、外に逃がした。しかし、おそらくその際に後翅が傷んでしまい、翌朝までにその部分がとれてしまい、飛べなくなって実習室のすぐ外でばたばたしていたのを発見した(図 2)。この個体も少なくとも数日は生存した。

口吻が退化して何も食べられないヤママユの成虫は、近畿地方では主として 9 月の夜間に羽化し、直ちに交尾するが(寺本, 1997), 上記 4 個体も、このような目的での行動中か、あるいは行動達成後であったのだろう。なお、本種の成虫の色彩は変異に富むことが知られているが、今回の 4 個体とも同色で、黄褐色であった(図 1, 2)。



図 1 夜間に道路(和歌山県白浜町)に横たわっていたヤママユ雌



図 2 夜間に明かりをつけた部屋(和歌山県白浜町)に飛び込んできたものの後翅が傷んで飛べなくなったヤママユ雄

## 引用文献

寺本憲之. 1997. ヤママユ. 日本動物大百科 9 昆虫 II, 平凡社, 東京. pp. 88-89.

(くぼた しん 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)